

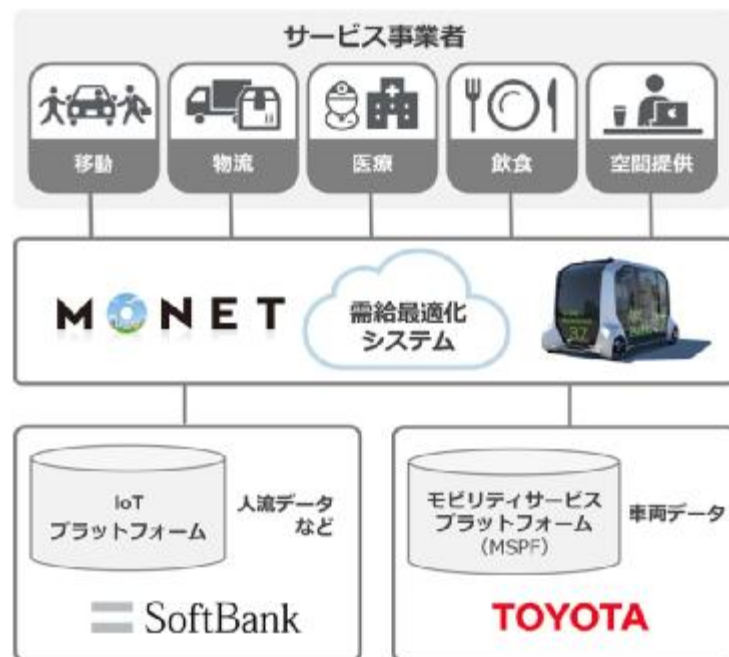
画期的システムの乗り物が誕生か

従来の自動車からの脱皮が未来の姿に進化し自動化と新たな都市交通として着々と実現化しています。

それはトヨタとソフトバンクが未来の交通機関として、このたび、新しいモビリティサービスの構築に向けて新会社「MONET Technologies（モネ テクノロジーズ）株式会社」（以下「MONET」）を設立して共同事業を開始した、と発表されました。

MONETは、ソフトバンクの「情報革命で人々を幸せに」とトヨタの「全ての人に移動の自由を」の二つのビジョンを融合し、安心・快適なモビリティ社会の実現を目指すという。

MONETでは、利用者の需要に合わせてジャスト・イン・タイムに配車が行える「地域連携型オンデマンド交通」「企業向けシャトルサービス」などを、全国の自治体や企業向けに展開していく予定とのこと。



オリンピックの年・2020年代半ばまでには、移動、物流、物販など多目的に活用できるトヨタのモビリティサービス専用次世代電気自動車（EV）による「Autono-MaaS※2」事業を展開。例えば、移動中に料理を作って宅配するサービスや、移動中に診察を行う、病院送迎サービス、移動型オフィスなどのモビリティサービスを、需要に応じてジャスト・イン・タイムにお届けする。

MONETは、トヨタが構築したコネクティッドカーの情報基盤である

「モビリティサービスプラットフォーム (MSPF)」と、スマートフォンやセンサーデバイスなどからのデータを収集・分析して新しい価値を生み出すソフトバンクの

「IoTプラットフォーム」を連携させ、車や人の移動などに関するさまざまなデータを活用することによって、需要と供給を最適化し、移動における社会課題の解決や新たな価値創造を可能にする未来のMaaS※1事業を開始したという。

目の前にすぐ画期的乗り物が誕生しそうです！

※「ソフトバンクとトヨタ自動車、新しいモビリティサービスの構築に向けて戦略 ...」のサイトの一部より抜粋し加筆させて頂きました。

※1Mobility as a Service

※2 “Autono-MaaS” とは、Autonomous Vehicle (自動運転車) とMaaS

(Mobility-as-a-Serviceモビリティサービス) を融合させた、トヨタによる自動運転車を利用したモビリティサービスを示す造語